

四国ブロッククラブネットワークアクション 2017 開催報告

日 時： [1 日目] 平成 29 年 11 月 25 日（土） 13：00 ～ 17：30
[2 日目] 平成 29 年 11 月 26 日（日） 9：00 ～ 12：00

会 場：高知県立大学 永国寺キャンパス

内 容：テーマ『共生社会の実現に向けて総合型地域スポーツクラブにできること』

[1 日目]

1. 共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」
2. 事例発表「障がい者スポーツに取り組むクラブ」

[2 日目]

1. 講演・グループディスカッション

「障がい者スポーツと総合型クラブ～TOKYO2020 を見据えて～」

【概要】

本年度は『共生社会の実現に向けて総合型地域スポーツクラブにできること』をテーマに、障がい者スポーツに焦点を当てました。

1 日目は、昨年が続いて行われた共通プログラムにて、ワークを通じて実際にクラブで障がいのある方を受け入れる体制について考え、事例発表では実際に障がい者スポーツを行っているクラブの事例から障がい者スポーツへの理解を深めました。2 日目は、講演・グループワークを通じて、障がい者スポーツについて知り、実際にどのように行動に移していくかを検討しました。

2 日間を通じて、障がいのある方のスポーツ環境づくりという地域の共生社会の実現への共通理解をはかるとともに、四国 4 県のクラブ間の交流も深めました。

【内容】

[1 日目]

共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、障がい者スポーツの機運が高まり、理解も進んできていますが、総合型クラブでのプログラムとして取り組むには、まだまだ不安があり踏み切れていないクラブもあることから、昨年につき、共通プログラムとして「障がい者スポーツ」を取り上げました。

講師として、社会福祉法人 高知県社会福祉協議会・高知県立障害者スポーツセンターの北村大河氏、福本志満氏を招き、知的に障がいのある方の理解に焦点を絞り、関連知識を深めるとともに関係団体との連携について学ぶ機会としました。

まず、「障がい者スポーツ団体に関する紹介」として福本氏から、高知県障害者スポーツセンターの施設や実施している教室・大会等について紹介がありました。その中では、教室での参加者の様子なども紹介され、実際に障がいのある方と接するときは、相手が何を言いたいのかを理解するためにじっくりと話を聞くなどの接し方をすることが重要であるとの助言をいただきました。

続いて、「知的に障がいがある方がクラブに参加できる環境を整えるためのワーク」を北村氏から助言をいただきながら実施しました。ワークでは、知的に障がいがある方がクラブに参加するために「どのような情報が必要か」「その情報をどこに（誰に）聞くか」の 2 点について考えました。参加者の中には、すでに障がいのある方を受入れた経験のある方も多く、様々な意見やそれぞれのクラブでの経験を共有することができました。最後に北村氏から、障がいのある方の参加が及ぼすクラブへの好影響についてのお話があり、さらに内容によって相談先は異なるものの、構えすぎることはないように気軽に相談しながら受入れてほしいとの言葉がありました。

事例発表「障がい者スポーツに取り組むクラブ」

障がい者スポーツに取り組むクラブの事例発表として、香川県の【さらスポーツクラブ】の田村治仁氏、徳島県の【NARUTO 総合型スポーツクラブ】の山本恵美氏から各クラブの取組について事例発表がありました。

田村氏の事例発表では、本人のやりたい・やりたくないに関わらず、障がいの種別や軽重に合った競技を周囲の人から勧められることが多いという経験から、ルールや道具を変えることで、本人がやりたいことをみんなと一緒に楽しめる場の実現に繋がっていることが紹介されました。実例として、高齢者・子ども・知的・精神・身体障がいのある人など様々な立場の方が参加する風船バレーボールサークルでは、その日の参加者に合わせたルールをその場で決めることで2歳～70歳の人と一緒に楽しんでいることや、風船バレーボールサークルへの参加を通じて子どもが大人の動きを見て、車イスの扱い方や介助を自然に真似するようになった様子などの話がありました。田村氏からは障がいは特別なものではない、障がい者も楽しめるスポーツ環境を作ろうとの言葉がありました。

続いての山本氏の事例発表では、身体障害者野球チーム「徳島ウイングス」とクラブの連携までの経緯や試合相手の調整や選手へのトレーニングサポートなどの実際の連携内容について発表がありました。また、障害者野球チームとの連携がきっかけになり、フライングディスク教室や車イスバスケットボール教室を始め、障がいのある方と健常者が一緒になって楽しんでいる様子が紹介されました。山本氏からは連携によって、障がいがあるということだけで構えなくてもよいのではないかと思うようになったという言葉がありました。

[2日目]

講演・グループディスカッション

「障がい者スポーツと総合型クラブ～TOKYO2020を見据えて～」

講師に日本福祉大学の安藤佳代子助教を迎え、障がい者スポーツに関する基礎知識や現状に関する講演やグループワークを行いました。

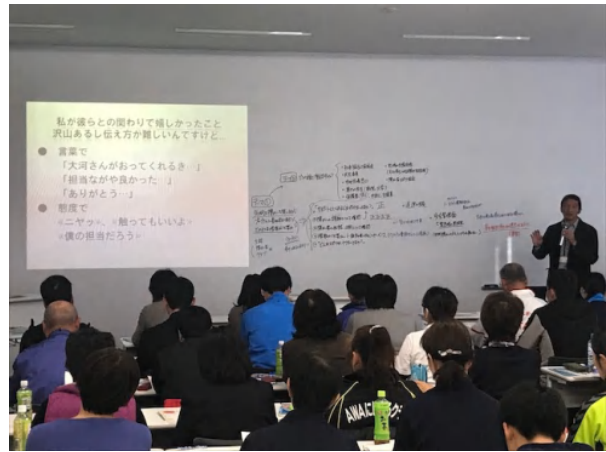
講演では、「障がい者スポーツ」は、誰でも気軽に参加して楽しめるようにルールや用具を工夫し適合（adapt）させた「アダプテッドスポーツ」であり、「どうしたらできるか」の視点を持って考えることが重要であるとの説明がありました。日頃のクラブでの活動種目を、どのようなルールや用具に変えれば、車イスの人や聴覚に障害のある人が楽しめるもの（アダプテッドスポーツ）にできるか話し合いました。また、アダプテッドスポーツに取り組むことの影響について、とある小学校での車イスバスケットボールを通じた交流により小学生の障がい者に対するイメージが変わった事例や、障がい者がスポーツ教室に参加しスポーツを楽しむことで、心理的な変化が起こり、体力の向上にあわせて日常生活での外出頻度が増えた事例などの説明がありました。

また、本年3月に国が策定した第2期スポーツ基本計画での障がい者スポーツに関する記述や障がい者スポーツに関する各種調査結果について紹介され、障がい者スポーツの現状について学びました。その後、第2期スポーツ基本計画にもある「スポーツ参画人口の拡大」のためにクラブの既存の活動をインクルージョン化（障がいのある人とない人が一緒に行う）するためのグループワークを行いました。

総合型クラブで障がい者スポーツを実施するにあたっては障害者スポーツセンター等と連携することが鍵になることから、四国4県の障がい者スポーツ協会・協議会の組織や事業概要、各県での障がい者スポーツ協会の協力事例の紹介がありました。後援の最後には参加者が県ごとのグループに分かれ、アフター2020を見据えて各県で何ができるのかを考えるグループワークを実施しました。



共通プログラム(講師 北村氏)



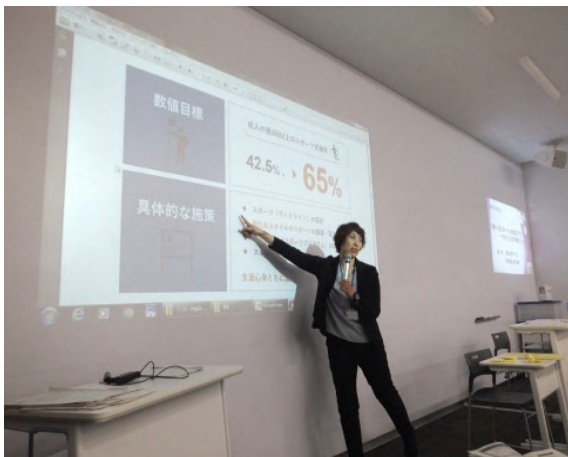
共通プログラム



事例発表(さらスポーツクラブ田村氏)



事例発表(NARUTO 総合型スポーツクラブ山本氏)



講演(安藤氏)



講演(安藤氏)



グループワーク



グループワーク